

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-163	13-134	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p>A characterization of adult victims of sexual violence: results from the national epidemiological survey for alcohol and related conditions. 性暴力を受けた成人被害者の特徴：アルコール及びアルコールに関連した病気の全国疫学調査(NESEARC)の結果</p>		
執筆者		
Xu Y, Olfson M, Villegas L, Okuda M, Wang S, Liu SM, Blanco C.		
掲載誌		
Psychiatry. 2013 Fall;76(3):223-40. doi: 10.1521/psyc.2013.76.3.223.		
キーワード		PMID
性被害、性的虐待、精神疾患、疫学、成人期		23965262
要 旨		
<p>目的： 子ども時代に性的虐待を受けていない集団に対して、成人期の性被害と相関するリスクファクターや精神医学上の合併症を調査する。</p> <p>方法： 2001年から2002年までの第1回と2004年から2005年までのフォローアップの第2回が実施されたアルコール及びアルコールに関連した病気の全国疫学調査(NESEARC)のデータを活用して分析した。第2回の調査の34,653名から、子ども時代に性的虐待を受けなかった個人を特定して、18歳以降に初めて性被害を受けた集団(788名)とを受けていない集団(31,087名)に分類した。また、診断にはDSM-IVを用いて構造化面接が実施され、ストレス、ソーシャルサポート、子ども時代の出来事や親の精神病理との関連を調べた。</p> <p>結果： 子供時代に性的虐待を受けていない成人の2.5%は、成人期に性被害を受けていた。特に、女性で、一人暮らし、経済的に不利な状況、子ども時代の不幸な出来事や親の精神病理が、リスクファクターとして特定された。成人期の性被害は、多様な精神疾患の発症のリスクを高め、特にPTSD(HR=3.43, 95% CI[2.67,4.41])と薬物乱用(HR=3.38, 95% CI[2.49,4.58])で顕著であった。逆に、精神病理の既往歴がある場合、特にPTSD(HR=3.99, 95% CI[2.68,5.94])と気分変調(HR=2.26, 95% CI[1.42,3.59])が成人期の性被害の可能性を高めた。</p> <p>考察： 子ども時代の経験と成人期の社会人口統計的記述は、成人期の性被害を被るリスクに影響を与える点で重要である。精神疾患は、成人が性被害に至るリスクファクターにも、また性被害によって生じる結果にもなりえる。</p>		